

輪之内町教育委員会第5回定例会会議録（教科用図書の採択関係）

日 時 令和6年8月1日（木） 午後3時00分 開議

場 所 輪之内町立図書館 2階会議室

議 事 日 程

1 開会（開議）宣言

日程第1 前回会議録の承認について

(1) 輪之内町教育委員会第3回定例会会議録（令和6年6月6日開会）

日程第2 会期について

日程第3 会議録署名委員の指名について

日程第4 報告事項

(1) 教育長報告

(2) 教育課からの報告

(3) 教育委員報告

日程第5 議第11号 令和7年度使用小・中学校用教科用図書西濃地区採択について

日程第6 その他

(1) 協議事項

(2) その他

1 閉会宣言

会議に付した事項 議事日程に同じ

出席者

教 育 長 長 屋 英 人

(教育委員)

教育長職務代理者 田 中 俊 弘

委 員 市 橋 修

委 員 市 橋 肇

委 員 金 森 京 子（遅刻 午後3時28分から出席）

(出席職員職氏名)

教育参事兼教育課長 田 内 満 昭

主 幹 浜 田 一 郎

主任指導主事 近 藤 法 和

開 会 （午後 3 時05分）

1 開会宣言

【長屋教育長】 それでは、ただいまから輪之内町教育委員会第5回定例会を開催します。

日程第1 前回会議録の承認について

【長屋教育長】 日程第1 前回会議録の承認について。

薄く網かけした部分を非公開としたいと思います。

なお、非公開部分などの検討ということでもありますので、この日程については非公開とします。

〔説明内容非公開〕

【長屋教育長】 これよりは公開といたします。

日程第2 会期について

【長屋教育長】 日程第2 会期についてであります。本日1日限りといたしますが、御異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

【長屋教育長】 会期は本日1日限りといたします。

日程第3 会議録署名委員の指名について

【長屋教育長】 日程第3 会議録署名委員の指名についてであります。輪之内町教育委員会会議規則第21条の規定により、市橋 修委員を指名いたします。よろしくお願ひします。

日程第4 報告事項

【長屋教育長】 日程第4 報告事項について。

(1)教育長報告

【長屋教育長】 まず私のほうからですが、今回は特にありません。

(2)教育課からの報告

【長屋教育長】 次に、教育参事、お願いします。

【田内教育参事兼教育課長】 ありません。

【長屋教育長】 次に、浜田主幹、お願いします。

〔資料により説明〕

〔討論内容省略〕

【長屋教育長】 それでは次に、近藤主任指導主事、お願いします。

【近藤主任指導主事】 はい。

【長屋教育長】 ここからはプライバシーに関する内容が含まれますので、非公開としたいと思います。よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【長屋教育長】 異議がありませんので、非公開とします。

〔説明内容非公開〕

【長屋教育長】 それでは、これよりは公開といたします。

(3)教育委員報告

【長屋教育長】 次に、委員さんからの報告事項について、何かございますか。

【田中教育長職務代理者】 〔説明内容省略〕

【長屋教育長】 ほか、報告事項はございますか。

(挙手する者なし)

日程第5 議第11号 令和7年度使用小・中学校用教科用図書西濃地区採択について

【長屋教育長】 それでは、日程第5 議第11号 令和7年度使用小・中学校用教科用図書西濃地区採択についてを議題とします。

【長屋教育長】 それでは、事務局、説明をお願いします。

【田内教育参事兼教育課長】 別とじの議案を御覧ください。

では、1ページをお開きください。

議第11号 令和7年度使用小・中学校用教科用図書西濃地区採択について。令和7年度使用小・中学校用教科用図書については、令和6年度岐阜県教科用図書西濃地区採択協議会で決定された採択案のとおり教科用図書を採択するものとする。令和6年8月1日提出、輪之内町教育委員会教育長です。

次の2ページは、西濃地区採択協議会に報告する議決書です。

3ページは、西濃地区採択協議会で採択された小学校用教科用図書の採択原案です。

4ページは、同じく西濃地区採択協議会で採択された中学校用教科用図書の採択原案です。

この教科用図書は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律という規定により、毎年度8月31日までに採択することになっています。

また、同一の教科用図書を採択する期間は4年とされており、小学校は令和6年度から9年度まで、中学校は令和7年度から10年度までです。

よって、小学校は今年度と同一の教科書を採択することになります。中学校は全ての種目が採択の対象になりますので、今回、西濃地区採択協議会で決定された採択原案と同一の教科書を採択することとしております。

説明は以上です。

【長屋教育長】 前回お配りしました資料の中に選定の理由というのがあったと思いますが、各教科ごとに選定の理由が挟んであると思います。

それから、他社との比較のためのページ番号が書いてあるこんな一覧があったと思いますが、この該当の箇所については付箋が貼ってありますので、その付箋のところを開いていただければそこが見られるという状況にしております。

ということで、この選定の理由等を併せて御覧いただきながら、これから少し時間を取りた

だと思いますので、こちらのほうを実際に見ていただいて、後で御意見をたくさんお聞かせください。

ずうっとこれだけの、国語から道徳までありますので、ちょっとしばらく時間を取りたいと思いますので、じっくり見ていただいて、御意見をたくさんメモしておいてください。よろしくお願いします。

教科書見本の確認 (午後 3 時33分から午後 4 時30分まで)

【田中教育長職務代理者】 問題をするのに、僕らの子供の頃だとか、ちょっと前に教育の現場を見させていただいたときに、何となく先生がしゃべるんじゃなくて、こういう目的でというのをまず探させて、そこからしゃべっていくというのが丁寧に順番を追って書いてあるのが、候補の中でナンバーツーはそのところがちょっとまだ欠けるところがあるなという実感をいたしました。原案に賛成でございます。

【長屋教育長】 ほかいかがですか。

【市橋（修）委員】 同じです。

【市橋（肇）委員】 自分は、全部の教科書をどうかということは見られないので、自分が分かりやすい理科という言い方、旧は、今はサイエンスと書いてあるんですけど、そこを見させてもらって、提示されたこの調査研究資料で提示されているところで、理科のところ東京書籍と啓林館を3年生の分について調べているところがありました、浮力ということについてね。

そこを拝見して、こちらに大きな資料があって、コメントもされているんですが、その中で僕は自分なり感心したのは、やはり啓林館さんに比べて東京書籍さんのほうが、要は思考するステップを大事にしていると。その思考するステップを大事にしているということをつくづくちょっと感心しまして。

どんなことかということ、やはりまず問題をどう把握して、それを解決するためにどんな仮説を立てて、その仮説を証明するためにどんな実験を組んで、それでその結果をどう解析して結論に持っていくかということ丁寧な東京書籍さんは書いているんです。

それに比べて、欠点を言うといかんのやけど、割とさらっと目的とか、どんな実験するか、それで結果はこうだよというようなことで、そういうステップをあまり大事にしていないような内容の教科書になっていたのも、どちらかという僕は東京書籍さんのほうがいいんじゃないかと。

いずれにしろ、今回これを見させてもらって、西濃地区で評価していらっしゃる中に、調査項目とか着眼点というのを整理されていて、学習指導要領でそれになかったように着眼点を見て評価していらっしゃるというのはある程度は分かるし、今、時代に合わせた考え方、ステップを大事にする。いろいろ、サイエンスなんかは自然科学ですので、科学をするためにはどんなステップが必要かということ、仮説を立てて、実験して、それを証明していくと、その真理に近づくと、そういうステップを一生懸命書いてくれているので、それは後々高等教育を受けに行ったときでも通用する、学会なんかでも通用するステップだと思いますので、非常に中学校の段階からそういうものを教えてくれているのを見て感心しました。

それともう一つは、まだ我々としてはその先のことで分からないようなところがあるんですけど、SDGsだとか環境問題をどう取り組んでいくとか、まだその真理があるところまで行っていないんじゃないかと思われるようなこともある程度言及してきて、話題提供ぐらいでいいと思うんですけど、そういうのを盛り込んだ教科書をつくってきてくださっている。だから、それはすばらしいなと。

どちらの会社もやっているんですけど、深さとしてはちょっと東書さんのほうが丁寧だと思う。それくらいでもって、ここに結論として持ってきていらっしゃる、採用したのが東書さんなので、その辺は僕もアグリーしたいというふうに思っています。以上です。

【長屋教育長】 ありがとうございます。

【金森委員】 私も本当に、浜田先生とか市橋委員とかお聞きして、そういうところがすごい変わってきたんだなと思って。自分は受けたのは教授的な一方通行の授業で、例えば理科とか、えっ、それ何で加えたのとか、そういうのはちょっと最初の導入は面白くするんだけど、後はみんな同じ流れで、みんなが同じことをするというパターンだったんだけど、本当に理科の教科書でもこの頃のは、自分が自分でつかんだ仮説を立てて、自分でどんどん調べていくと、そういうのがすごくいいなと、そういうのももう教科書に書いてあるというのがすごいなと思って、やり方が。

音楽にしろ何にしろ、何か子供たちもここで何を勉強してもらおうのかということも書いてあって、先生と一緒にやっていけるんだなというところも面白いなと思いましたし。

だから、理科にしろ社会にしろ、自分が、えっ、ここで誰が何でこういうことに発展、戦争に発展したのかとか、そういうのを自分なりにまず考えると、自分で調べてそれをセッションする、そういう力が求めているし、子供たちもそのほうが楽しいだろうなと。そういうふうな教科書が選んでもらってあるのが第1候補だったと思います。

ただ、数学の苦手な私にとっては、数学をもうちょっと楽しく、何かどうやったらいいんだろうというのは思いました。

【田中教育長職務代理者】 数学は工夫がすごかったな。

【市橋（肇）委員】 うん。

【金森委員】 以上です。

【田中教育長職務代理者】 教科書はこう作るんだけど、マンパワーがついていくかという、これに。理想論はいいですよ。ついていくかということと、生徒がついていくかということをもうちょっと考えないと。先生方の教育方法がかなりのレベルになってこないといけないなと。

レベルというか、鍛えるレベルじゃなくて見識。教員というのはそういう時代になってくるんだなと。

【長屋教育長】 今おっしゃられた教員側のマインドセットの変更というか、それというのは非常に大きな課題で、若い人もなかなかそういうことを教えてもらえるとか、授業を見てもらったりとかする機会が最近結構少なくて、若い人ほど昭和の授業をしているというのが結構あります。

だから、いわゆる先生が自分の持っている知識をどんどん与えて、面白い話をすれば子供は楽しいし、それで子供はある程度満足しているところもあるんだけど……。

【田中教育長職務代理者】 面白いエピソードをしゃべるわけね。

【長屋教育長】 例えばですよ。それで、ああ、この教科は面白い、この先生好きだとかというふうになるんだけど、でもじゃあその子供自身は思考力や判断力や表現力って育っているかという、全く受け身の状態で、ただ先生がしゃべることを聞いて、黒板に書かれたやつをそのまま写すというような、そんなような勉強の仕方では、今求められている子供の学力というのはそういうものじゃないので。

【田中教育長職務代理者】 うん、そうじゃないですね。

【長屋教育長】 だから、本当に意識改革は大きなテーマになっている。

【田中教育長職務代理者】 担当の先生としては迷惑かもしれんけど、うちらみみたいな第三者が授業を見なきゃいけないなあ。

【金森委員】 スーパーアドバイザー、スーパー先生。

【田中教育長職務代理者】 何もコメントしなくてもいいので、いっぱいいろんな目が見ると、やり方が変わってくるわね。

【金森委員】 退職する前ですけど、神戸の芦屋の学校のほうに研修に行かせてもらったんですけど、もう十何年前で、5年以上経験した先生がほとんどで、だからもうどんどん年の先生は辞めちゃって、若い先生ばかり、真ん中にはいない状態で、研修ができないというか。

そういうときに、やっぱりそういうスーパーアドバイザー先生に定期的に来ていただいて、先生たちが研修するということの学校に行かせてもらって、今でいう自分が課題をつかんで、自分たちがやって、どんどん話すという、そういう授業をされていたんですけど、もともとそのときにね。だから、今結構どこもそういう時代ですよ。だから、そういうスーパーアドバイザーで先生が学ばなあかんということと。

それから、こういうふうな私たちがやっていたときに、ゆとりのときに、今までみたいに一斉授業をやるんじゃないで、その子供たちが好きなことをちょっとやらそうというふうな授業に変わったところがあるんですけど、そのときに本当に先生は困った。なぜかという、同じ三十何人おって課題が全部違うと、そこにちょっとついていくのに先生が困るというか足りないという。

でも、それをフィンランドかどこかの外国の授業を見せてもらったら、1つの教室に先生が何人かいるわけ。それは違うわねと思って。いろいろ子供たちと一緒に、子供たちがやりたいことを先生たちが各テーブルを回ってアドバイスしていくという。それは違うわね、1人でやっておるのと思ったから、やっぱりマンパワーも必要で、そういうことをするにはマンパワーも必要だし、先生自身の研修も必要だなと思います。

【田中教育長職務代理者】 しかし、その研修するのに何を教えたらいいか、先生に。

輪之内町はみんなでこうやってやって、どうしたらどうしたらというのを動きをつくるのは面白いかもしれんな。

【金森委員】 私、片や宮城教育大学の元教授の先生、とにかく、先生が言った、突っ込む、一つの課題、突っ込む、作者まで突っ込む、作者の周りの生活まで突っ込んで。でも、その授業形態はどうだったかという、それはいいんですけど、とにかくみんなでしゃべるんじゃないで、教授的だったんですね、ちょっとお年だったし。

片や佐藤 学先生の学んできた、弟子じゃないけど、グループの方の授業、石井先生だったかな、をやっている、同じ町なんですけど、やっていたんですけど、その先生はとにかくディスカッションさせると。そういうので、先生は本当にポイントポイントで二言三言しゃべるぐらい。

でも、とにかくしゃべる中で子供たちが考えていくという、そして学び合っていくというか、そういう授業を、やっぱり切り替わらないと、教師が今までのやり方を切り替えていかないと、科学にしたっていけないから、やり方を勉強しないと。

【長屋教育長】 それは、一斉授業を脱するというと何か完全に個別学習みたいなイメージになってしまうかと思うんだけど、実はそうじゃなくて、日本が求めているのは「令和の日本型学校教育」という言い方をしているんです。日本型の学校教育で何をやるかという、一人一人の個別最適な学びと、それから仲間と一緒に話し合ったりして進める協働的な学び、これを一体的に推進すると言っているんです。

だから、授業の中で個別で深める場面もあれば、グループで追究する場面もあればというのを行ったり来たりしながら授業改善、主体的・対話的で深い学びというやつですね。それを取り組んで身につけたい資質能力を身につけさせる、何かそういう授業のスタイルを日本は求めているので、そういうふうなのに当てはめていけるような、今、教科書のつくりになっているんです。個別最適な学びと協働的な学び方を一体的に推進できるような授業のための教科書、そういうつくりになっている。ちょっと教科書に戻しましたが。

【市橋（肇）委員】 西濃地区の指導方針に真っ先に書いてありますね、そういうのね。

【長屋教育長】 はい。

【市橋（肇）委員】 だから、そういうのも解説してもらおうと、そういうところだというのはちょっと分かるんですけど、果たしてそういう方針で今までの教育とは違うところへ持っていくということがいいんだろうかというのが一方で出てくるんですけど。

言っていらっしゃるのは多いし、例えば今ダイバーシティとか何とかと言って、いろんな評価軸が全部変わってきている。私たちが育った時代に画一的な物差しで評価されていたのと違う時代に入っているもので、ただそういうのを許容できる時間と人・物・金ですね、そういうものが本当に投入できるのかどうかというのが僕なんかどっちかという心配になるという。教育なら教育だけに充ててもいいんだけど、行政の人たちなんかはほかにもいろんな課題があるでしょう。それにみんなちゃんとそうやって税金を生かすところでうまくやれるのかどうか。だから、輪之内なんかでも今どうですか、総額の中の10%ぐらいの予算をいつももらっているでしょう、教育関係って。

（「給食も含めると」の声あり）

【市橋（肇）委員】 そういうときに、今図らずも言われたんだけど、違う行政なんかでは給食費を無料化しろだとか何とか、全然子供、人格形成をどうするかということとは違うような話にどんどんなっていくって、いろいろ揺れるので、私は言われる個別最適な学びとか協働的な学びというものの、目標とされるのはいいんだけど、それは具体的にはどんなイメージで、どんなふうになるのかというのがいま一つまだ分からない、そんなところがあるんですけどね。

【長屋教育長】 それは先ほどの話で、若い先生がその授業のスタイルをイメージできないと

かということと……。

【市橋（肇）委員】 一緒です。

【長屋教育長】 一緒ですので。

ただ、それを実現するためには人・物・金があるとそれはもちろんいいんですけど、そんなに人を雇えるわけでもないし、そのための道具がICTなんですよ。1人1台タブレットというのがすごく個別最適な学びとか協働的な学びに有効に働くので、そういうのをうまく取り入れて授業を実現していく、そういう研修をやっていかなあかんですね。

【市橋（肇）委員】 だから、さっきの教科書の中にQRコードがあって、それをひもとけばどんどん、今言われるタブレットなんかを使ってどんどんアプローチしていけば、どんどん進めていけるということで、個別最適な学びにそういうことが通じていくのかもしれないんですけど、それを突き詰めていくんだよということをみんなどの程度分かっているのかとか、それがちょっと僕なんかは分からなくて。やってみないと分からないというか、自分が体験してみないと分からないという。

【長屋教育長】 そうですよ。

【市橋（肇）委員】 経験が必要かなと思っているんですけど。

今の先生方は、そういうだから指導をどんどんやっていく予定なんですか。

【長屋教育長】 そうですね。

【市橋（肇）委員】 そうすると、すごい時間がかかるように思うんですけど。

片一方では、働き方改革だとか何とかで時間を短縮するような格好になるじゃないですか。

それで、私たちの時代はせいぜい何か教科書と、国語とか算数が分からなかったらドリルというやつで補完していくような感じだったんだけど、今はその手段というかツールがタブレットだったりなんかして、QRコードでそういう問題設定ができるから、そこへどんどん進めていけばいいと、そういう話になるんだけど、本当に自分で主体的に学ぶ力のある人はいいけど、田中先生みたいに平均点をこの辺にしようとか、この間学力テストがあったじゃないですか。またあれも新聞なんかに講評が書かれているんだけど、ああいうのなんかで片一方はまた知識教育みたいなことをどうしてもああいうものの評価の結果として出してきたりしていると。そういうところのはぎまで、いかに子供をどういう人間に本当に育てていくのか。

一方では、グローバルな人間をつくらんならんとか、いろんなことをやって、負荷も低年齢化して、英語なんかでも小学生から勉強させるとか、ある意味では知識教育みたいな経験教育をどんどん低年齢化しているようなところがあるので、本当に教職の人もお互いに一生懸命勉強しんならんし、子供と一緒に、子供がどんなものに育つのかという、それこそ仮説を立ててやっていって、それは何か実験計画じゃないけど実験しているんじゃないかなと、片一方ではちよつとうがった見方をするとところもあるんですけど。個別最適な学びとか協働的な学びというのは、言葉では書いてあるけど実感がないんですね。

【長屋教育長】 結局、やっぱり究極に求めるのは自律した学習者にしないといけなくて。

【市橋（肇）委員】 そういうことなんですか。

【長屋教育長】 はい。自分で学んでいける人、これは生涯を通して必要な力なので、そういうのをやっぱり義務教育段階では基礎はつくっていかないとですよ。

【田中教育長職務代理者】 公立学校はいっぱいいろいろな子がいるので、やっぱりこういう新しい行き方でいかないといけないというけんような気がする。そこが算数何点、国語何点、点数のいい学校をつくる、生徒をつくるというのとちょっと距離が違う。

【長屋教育長】 やっぱり国際社会に生きる日本人をつくらないかんので、ガラパゴスじゃ駄目なんですよ。日本の中だけで完結しておって駄目なので。社会、世の中、世界で求められる力を育成していくということで学習指導要領もどんどん変わってきているし、全国、さっきの学力テストの話も、あの問題も随分変わってきているんです、昔と比べて。単なる知識を問うような問題がかなり減っている。そういうことを小・中学校で一生懸命やっても、高校入試があったり、大学入試があって、しよせんテストの点数で決まるのかみたいなふうになっちゃうと、そこで切れちゃうんですよ。

だから、そうならないように、今、大学の入試の入試改革というのがすごく進められていて、問題の在り方なんかも随分変わってきている。

【田中教育長職務代理者】 高校のところで、最近変わってきたなという高校はあるわけね。例えば岐阜高校ってえらい変わってきたなと思う。

でも、高校が変わりが遅いんやね。世の中は変わっていくので、今小・中変わるんやったら早くこれに対応したほうがええような気がする。

【長屋教育長】 またちょっと教科書のほうに戻っていただいて、ほかの教科とかはいかがですか、見られて。

【田中教育長職務代理者】 よく分かりましたが、美術だけはよく分からなかったけど。

【金森委員】 美術。

【田中教育長職務代理者】 うん。

【長屋教育長】 地図帳なんかはいかがでしたか。

【金森委員】 地図はよく分かった。

【田中教育長職務代理者】 よく分かった説明やった。

【長屋教育長】 どこがどんなふうによかったのか。

【田中教育長職務代理者】 読む地図になっていたもので、なるほどと思って、自分の楽しみ、見られるなど。僕は実は地図を10年に1回ぐらい買っているんだけど、高校の教科書の地図を。ふらふらと勉強するのに大人が使ってもいいなど。中学校の今のやつを見ると、中学校のやつでも使っているんやね。地図の詳しいやつはグーグルのほうがいいので、地図は読むもんやね、これからは。という点では、なるほどなど、どこや知らんの説明のやつがええなあと。

【長屋教育長】 何か補足ありますか。

【浜田主幹】 先ほど教育委員さんとお話しさせていただいたのは、例えば地図という帝国書院ですが、やはり見るだけの地図ではなくて、やっぱり一人学びができるというところで、地理との関係で、長野県の野辺山地区のキャベツ栽培とかレタス栽培について、そこで問いが書かれていたり、あとは例えば中部地方であっても、歴史の江戸時代の出来事の年表があり、それがどこで行われたか番号で記されていることにより、やっぱり歴史との関係も地図帳で学習できるという利点があり、他社のほうにはそれがなかったというところで、やはり帝国書院さんは、先ほどから言ってみえますが、一人学びというか、個別に興味を持った子が学習するに

は最適かなというふうに思い、帝国書院がいいかなということをお話させていただきました。

【田中教育長職務代理者】 不破関が載っているからあそこがいいという話じゃなくて、グローバルに考えたときに、この候補のところがよろしいということみたいやね。

【浜田主幹】 はい。

【田中教育長職務代理者】 西濃地域はこれが載っておって、東北地方はどこどこが載っておるでという地域エゴではなくて、グローバルによろしいと。輸中も載っておってくれるともっとうれしい。

【長屋教育長】 あと何か公民も話題になっておったんでしたっけ、公民の教科書。

【金森委員】 だから、自分が選挙に行ってみるとか、自分が立候補するとか、ロールプレイ的な学び方というのがいいなという感じがした。教えてもらったというか。

【田中教育長職務代理者】 各市町村で議会を見学するというのはあるけど、どこや知らんの人がゲームをやっておったとかいう話やけど、あれは行政としては子供に対するサービスではなくて、真剣に教えなあかんのやな。町のイベント、子供やでということじゃなくて、議会というものはこういうものだと真剣にやらないと、あの議員さんみたいにゲームをやっておったということになるわけやな。今の公民の取扱いでいくと、議会というのは珍しいでおまえらも見せたるわということじゃなくて、真剣にこの人たちが清き一票、あるいは立候補してくると、将来という考え方でやらんと、ゲームをやっていることになるわな。

【浜田主幹】 たしか6年生でも扱いますけど、中学校3年生の公民で扱う意義は、やはりもうそこを見据えて、主権者として、公民は全てそうです。社会の一員としてどうあるべきかを頭に入れてあの1冊を学習しますので、法律のことだとか、経済のことだとか、やっぱり主権者の一人としてどう考えるという、そこに突きつけていくので。

その面で、先ほど金森委員さんが言われたように、東京書籍の公民の学習は主権者の立場で誰に投票するか、次は市長になった立場で何を政策として掲げるかとか、一人の経営者としてどこにコンビニを建てるかとか、そのようにいろんな立場に立って多面的に捉えられるような導入がちりばめられていて、そこに子供がすごく食いつくので。

【市橋（肇）委員】 分かりやすい。

【浜田主幹】 分かりやすいですし、本当に激論になるんです。人の意見を聞いても、でも僕はこう思うというふうで。

【市橋（肇）委員】 いいことやね。

【浜田主幹】 はい。そういうふうで、やっぱりそれが、そういう意見が今後大事になるんやよということ。

【市橋（肇）委員】 それを突き詰めていくと、ビジネスマンを養成しているような感じなんですよ。だから、まさに今、同じ発想じゃなくて、戦略的にいうとニッチ戦略をやるのか、既存のものの延長線上だけ考えるか、どんな意図を持ってそういう持論を持ってくるかということところが何か興味がある。そういう教育を自由にさせるというのはいいことだと思います。

行く行くは、サクセスストーリーで、成功体験があったやつで、なぜあそこはそういうことで踏み切れたのかとか何とかと解析すると、今までにあったビジネスじゃないものになるとい

うようなところは、もちろん、でもリスクが大きかったりするんですよ。それを分からせてやってほしいなと思うときがあるんですよ。

例えば今のビジネスで成功しているの、例えば運送関係なんかは、例えば今のクロネコヤマト、西濃運輸と同じように一般の工場でできたものを運んでおったほうがよかったのを全部切り替えて、家庭の一般貨物に置き換えるといったら、あれはギャンブルだったと思うんですよ。そんなことで発展していくかどうかと。ああいう流通網をつくったりなんかもあるじゃないですか。

それからコンビニ。イトーヨーカドーから考えたらセブンイレブンなんていうのはお荷物だったのが、今じゃイトーヨーカドーが沈んで、セブン&アイ・ホールディングスになっちゃうじゃないですか。ああいうような発想に変わるといことをもうちょっと教えてもらえると、そういう自由な発想がいいことなんだという話になる。

だから、今世の中で成功している事例、成功している会社というのは、事ほどさように、あまり既得の条件に学んで、それを発展させていくという考え方、マイナーチェンジじゃなくてメジャーチェンジを図ってきているので、そういうことを教えてもらいたいかなと思います。

僕がびっくりするのは、そういうことをとにかく今はそういう、こんな中学生とかそういうレベルでそんなところまで教えようとするんかいと。我々はもっと純粹培養で、社会はかくあらねばならないとか、理想的な話だけしか知らなかったのに、すごい世間ずれしているような、世慣れしているような教育内容に変わっているなど。

さっき地図という話があったじゃないですか。地図なんか僕なんかは地理の補完用の資料として地図があると思っておった。だから、地図を見て楽しもうという感じじゃない。今の地図というものは、さっきもおっしゃっていたけど、歴史的な話も地理的な話もみんな盛り込んであの地図が出来上がっているという。

だから、ある程度の考え方でいくと、それは地政学なんだよね。それに政治とか何とかが絡んで、経済が絡んで、そういう立地条件があるからここは将来的に大事になる、それは地図上を見ても分かるよというような話になってきているので、何か本当に自分らが育った世界からすると格段の大人びているようなところへ傾倒していくような、考えさせるような教育をするんだなと逆に驚いているんですけど。だから、子供が子供らしくないとか、幼くない、大人び過ぎていないかな、大丈夫かななんて、僕はもうちょっと素直でいいんじゃないのと。

確かに僕らも自分らが卒業する頃にも中卒で社会に出る人はいっぱいいたんですよ。高校へ行く、ましてや大学へ行ったら、今のうちにほとんどの人が大学へ行く時代じゃなかったじゃないですか。本当言うと、僕らの時代にも中学校を卒業したら社会人として行くようになるためには、今のよう教育を受けて社会に出たほうがよかったのかなというのを改めてちょっと感心して聞いていましたけど。

そんなことを教える先生たちも大変だなと思って。例えば僕なんか思うのは、失礼ですけど、大学を卒業して教職を受けてきても、世間ずれしていないから、そんな人が中学校で教育したってあまりいい教育はできないような気がするんだよね。もうちょっとある程度年取ったような人が、それなりの社会勉強するような今の公民でしたっけ、そういうやつとか、サイエンスなんかもそうだと思うんだけど、ある程度社会で体験してきたような人、持っていた知識

でもってみんなに教えなきゃいけない時代になっているんじゃないかなと。

だから、今の世の中みんなそうなんだけど、ジェネラリストというよりはスペシャリストみたいなのを採用しなくちゃいなくて、しかも経験者採用というんですか。画一的な年度卒の者を採用する時代じゃなくて、その場その場に応じた、その内容に応じた階層の人を雇って、それを先生として採用して、その力を借りていくということが、これからは教育というのは必要なのかななんてちょっと今話を聞いておって思いましたけど。

それはどうなんですかね。教育という教職員の配置とか構成というのは、どんなキャリアをしてきた人を採用すべきかというのをちょっと迷っていらっしゃるのかなとも思うんですけど。今、中途採用の人はあまりいないんですか。意外に高校ぐらいになると中途採用の先生が結構いるんだよね。社会人になっておったんやけど、帰ってきて例えば数学の先生をやっているとか、ああいう化学の先生をやっているとか、そういう人が結構いるんだけど。

【長屋教育長】 免許を持っている人だったらあり得ますよね。

【市橋（肇）委員】 そうかそうか。採用することと素養があるということとは別なのかもしれないですけど。

【長屋教育長】 先ほどの公民の教科書の話もちょっと関係あるんですが、先ほどのSDGsの話じゃないですけど、答えのない問いに対して何かみんなで話し合っただけで納得解を見つけていくというのが何か求められている力なので、そんなような教科書のつくりにもやっぱりなっているんだろうし、必ずしも先生が子供たちよりも……。

【市橋（肇）委員】 上とは限らない。

【長屋教育長】 上とは限らなくてもいいし、そういう発想があるんだとかということをお互いにみんなに教えることもやっぱりすごく意味のあることだと思うし。そういうのも求められているんじゃないでしょうかね。

【市橋（肇）委員】 ともすると僕らは、何か聖職で、先生という偶像は人格的にもあって、知識も上部の人で、そういうのを教えてもらえる人というようなイメージがあるんですけど。

【長屋教育長】 従来型の知識伝達型の授業ではそういう感じですよ。

【市橋（肇）委員】 そう。それが共に学びましょうというような、一つちょっとステップ、ある意味ではへりくだったような教育というのも今教える中にはあるんだよということなんですかね。

【長屋教育長】 だから、ティーチングじゃなくてコーチングとかね。

【市橋（肇）委員】 ああ、コーチング。

【長屋教育長】 そういうのもあるということじゃないですかね。

【市橋（肇）委員】 だから、コーチングなんかでやると、その子供を否定することなく、持っているものを伸ばしてやるというような教育の仕方をしなきゃならんですよ。

【長屋教育長】 あるときは伴走者になってとかね。

【市橋（肇）委員】 いや、だけどコーチングとか何とかというのはすごい技術が要るような気がするんですけど。

【長屋教育長】 要りますね。

【市橋（肇）委員】 難しいなあ。何かどこまでどうやるのがいいのかわからんようになって

てくる。

【浜田主幹】 理解に時間のかかる子に手厚い指導を今やっているんですけど、一方でやっぱり早く理解できちゃった子への支援というのがなかなか十分でない部分があるので、そのことにはやっぱりステップアップというページがかなりあるので、やっぱりそういう子にとって、QRコードもそうですけど、さらに考えていくというのが大事にされた今の教科書かなというふうに思いますし。

あと、個別もそうですけど、やっぱり協働的に人の意見を聞いて再構築するという力もすごく大事ですので、まとめのページもかなり昔に比べ充実しているものが選ばれてきているなというふうに感じます。まとめて、最後自分で学習を振り返って、思考が自分は最初こうやったけどこうやって変わったよとか、やっぱり僕はこう思うとか、やっぱりそういうページがすごく充実してきているなというふうで、やっぱり個別も大事やし、やっぱり仲間との議論で構築していく。社会科はよくやるんですけど、一回こうやって考えておいて、でも相反する資料をもう一回与えて、「はあ？」と言わせて、このことはどう思うと言って、でもやっぱり僕はこう思うという、そこへ終着地点を持っていきたいので、そういう教科書になっているかなと。

【長屋教育長】 振り返りで自己の学びを調整していかないといけないので。

【浜田主幹】 そうですね。

【長屋教育長】 自律的な学びにつながるためには。

それでは、ほかはよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【長屋教育長】 じゃあ、意見も出尽くしたようですので、採決を行いたいと思います。

議第11号について採決をいたします。御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

【長屋教育長】 異議なしと認めます。

よって、議第11号 令和7年度使用小・中学校用教科用図書西濃地区採択については、原案のとおり採択されました。

日程第6 その他

(1) 協議事項

(2) その他

【長屋教育長】 それでは、ほかに何かありましたらお願いします。

委員さん、何かありますか。

(「ありません」の声あり)

【長屋教育長】 事務局、何かありますか。

(「ありません」の声あり)

【長屋教育長】 それでは、本日予定しておりました議事は以上でございます。

1 閉会宣言

【長屋教育長】 これで第5回定例教育委員会を閉じます。お疲れさまでした。

閉 会 (午後 5 時20分)